

子どもの貧困と教師

「正誤表」

					頁
本文 393	本文 345	本文 92	本文 44	本文 39	はしがき ii まえがき 1 9 ~ 12
1	扉	4	最終	最終	行 彼女は修論では教師坂本龍之輔と万年小学校での実践分析、博論では救貧政策とcharity schoolの問題に取り組んだが
一九九〇年三月	一九九〇年、所収	敗北と感じなければ	話せば	とやかう	誤 彼女が大学院修士課程志願者の一人としてわたくしどもの前に現れたのは、一九八三年三月のことであった。東京大学大学院教育学研究科教育哲学・教育史専攻課程の面接で、当時は堀尾輝久・宮澤康人・吉澤昇とわたくしの各教授、汐見稔幸助教授、中野新之祐助手の六名が臨席していたと思う。多くの志願者の一人だったので印象は定かでない。
一九九一年三月	一九九一年、所収	敗北と感じなければ	話せば	とやこう	正 彼女は修論では『近代日本における「教員社会」の成立と「教員」からの脱出の模索』をテーマとし、博士課程に進んでからは教師坂本龍之輔と万年小学校での実践分析に取り組んだが